



東アジア文化都市2023 静岡県・県主催事業

伊豆文学祭

festival



令和5年 10月14日(土) 15日(日)

会場 / アクシスかつらぎ 伊豆の国市古奈255

公式ホームページ



主催: 静岡県 / 伊豆文学フェスティバル実行委員会 / 伊豆のふるさとと文学2023実行委員会
後援: 伊豆新聞社 / 静岡新聞社・静岡放送 / 読売新聞東京本社

※ ※ ※ 本イベントは事前申込制です ※ ※ ※

◆ 申込方法(下記のいずれかでお申込ください。)

- 専用申込フォーム
- ハガキまたはFAX



【①氏名(ふりがな)・②郵便番号・③住所・④電話番号・⑤年代・⑥参加希望の文学イベント】を明記の上、下記事務局までお申込ください。定員に達し次第、締め切ります。(先着順)

◆ 申込 / お問い合わせ

伊豆のふるさとと文学2023実行委員会事務局

〒410-2416 静岡県伊豆市修善寺838-1 TEL:0558-72-0520 FAX:0558-72-1355

入場
無料

10/14

伊豆文学フォーラム

先着
200名

時間/13:30~15:30 場所/多目的ホール

第1部 伊豆文学作品朗読・講談 ~声を通じた文学の魅力~

朗読や講談等の多様な表現方法で伊豆文学を語り、声を通じた文学の魅力を披露。

- SPAC俳優 木内琴子氏・若宮羊市氏による「伊豆の踊子」朗読
- 講談師 神田堇花氏による「金色夜叉」講談



木内琴子(きうちことこ)



若宮羊市(わかみやよういち)

SPAC-静岡県舞台芸術センター所属俳優。公益財団法人静岡県舞台芸術センターは、静岡県が設立した公立劇団として1997年より活動を開始。静岡市内の静岡芸術劇場と静岡県舞台芸術公園を拠点に、舞台作品の創造上演を行っている。



神田堇花(かんだすみか)

2006年8月神田すみれに入門
2020年4月真打
趣味はかんぴょうを愛でること
★ブログ「すみちゃんのみか」
★Instagram「かんぴょうを愛でる」
随時更新中!!

第2部 対談講演「文学の新たなアプローチ」宮城氏×中江氏



宮城聡(みやきさとし)

演出家。SPAC-静岡県舞台芸術センター芸術総監督。静岡県コンベンションアーツセンターグランシップ館長。90年ク・ナウカ旗揚げ。2007年4月SPAC芸術総監督に就任。国内外での自作の上演と並行して世界各地から現代社会を鋭く切り取った作品を次々と招聘、「世界を見る窓」としての劇場づくりに力を注いでいる。



中江有里(なかえゆり)

女優・作家・歌手。1973年大阪府生まれ。法政大学卒。89年芸能界デビュー。NHK-BS2『週刊ブックレビュー』で長年司会を務めた。読書に関する講演、小説、エッセイ、書評も多く手がける。著書に小説『わたしたちの秘密』(中公文庫)、『水の月』(潮出版社)、『万葉と沙羅』(文藝春秋)など。文化庁文化審議会委員。天理大学客員教授。

10/15

全国文学サミットin伊豆

先着
200名

時間/10:00~11:30 場所/多目的ホール

県内外の文学のまちづくりを進める自治体が伊豆の国市に集う

事例発表やパネルディスカッションなど今後の動きを紹介
全国文学サミットin伊豆共同宣言採択

コーディネーター



細川光洋(ほそかわみつる)

1967年横浜生まれ。静岡県立大学国際関係学部教授。専門は日本近代文学。学生や自治体とともに文学ツアー「するが文化の散歩道」を開催、県内の文学振興に尽力している。著書『吉井勇の旅靴』(2021年)により前川佐美雄賞を受賞。

花巻市/副市長



松田英基(まつだえいき)

岩手県花巻市は詩人で童話作家の宮沢賢治が生まれ育ったまち。その多くの作品が花巻や岩手の風土から生まれた。市内には賢治ゆかりの地も多く「賢治さんの香りあふれるまち」を目指しまちづくりを進めている。

前橋市/前橋文学館館長



萩原朔美(はぎわらさくみ)

群馬県前橋市は、日本の近代詩史に大きな足跡を残した萩原朔太郎や、平井晩村、高橋元吉、萩原恭次郎、伊藤信吉ら多くの詩人を輩出した「近代詩のふるさと」。前橋文学館では、萩原朔太郎を祖父にもつ萩原朔美館長を中心に日々新しい挑戦を続けている。

～異郷としての日本～

時間／13:00～17:00 場所／大ホール

第1部 映像ライブステージ「鏡のなかのニッポン」

構成脚本

作家／長野県出身。
1986年『墜落の夏一日航123便事故全記録』で講談社ノンフィクション賞受賞。日本ペンクラブ前会長。

映像制作

北海道大学大学院卒。
米国CBS-NEWS等を経て映像作家として独立。CG等を駆使した舞台アート表現に新境地を開拓。

音楽

ヴァイオリニスト。東京藝術大学卒。
1994年にベルリン交響楽団ソリストデビューするや稀なる鬼才と絶賛される。

吉岡忍 (よしおかしのぶ)

四位雅文 (よついまさふみ)

佐藤久成 (さとうひさや)

語り

NHKアナウンサーを退職後、地域作りと言葉教育を組み合わせた活動を続けている。放送文化基金賞など受賞。

1969年NHK入局。「TVニュース」「その時歴史が動いた」「ラジオ深夜便・藤沢周平作品朗読」「NHKスペシャル」ほか、キャスター、ナレーションを含め100本以上を担当。退職後はTBS「下町ロケット」のナレーションなど。京都芸術大学教授。

山根基世 (やまねもとよ)

松平定知 (まつだいらさだとも)

第2部 朗読劇「補陀落渡海紀」 原作：井上靖

脚本演出

劇作家、演出家。劇団「燐光群」主宰。岡山県出身。岸田國士戯曲賞、鶴屋南北戯曲賞、読売文学賞、紀伊國屋演劇賞、朝日舞台芸術賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞などを受賞。

朗読出演

1940年、新聞記者の長男として東京に生まれ、戦時中は福島に疎開。俳優、作家、監督、脚本家、元参議院議員。日本ペンクラブ理事。

1984年燐光群に入団。ほぼ全作品に出演。新国立劇場『マッチ売りの少女』等、外部出演も、映画『関ヶ原』、NHK『透明なゆりかご』など多数。

坂手洋二 (さかてようじ)

中村敦夫 (なかむらあつお)

猪熊恒和 (いのくまつねかず)

小諸市／市長

明治の文豪 島崎藤村が6年間を過ごした長野県小諸市では、昭和33年に開館した藤村記念館の主催事業として、昭和48年から毎年「藤村文学講座」を実施するとともに、今年度30回の節目を迎える「小諸・藤村文学賞」を開催し、全国に小諸の文化を発信し続けている。

伊豆市／市長

伊豆は多くの文豪が訪れ、数々の文学作品の舞台となっている。伊豆へ来れば、当時のままの景色や、旅館では文豪のいた部屋に触れ、温泉でくつろげる。そんな豊かな自然と温泉と旅館文化が残る「文学の聖地」である。

小泉俊博 (こいずみとしひろ)

菊地豊 (きくちゆたか)

ふるさとの風土と歴史、作家と作品にスポットを当て、文学をライブステージ化してきた一般社団法人日本ペンクラブ企画監修のシリーズ〈ふるさとと文学〉。

今回は趣向をがらりと変え、「異郷としての日本」をテーマに、静岡県伊豆の国市で開催。

異郷——それは、故郷や母国から遠く離れた土地、見知らぬ人々の暮らす場所。

それはまた、人が死んでから行くと考えられている他界。あるいはそれは、よく知っているつもりの街、慣れ親しんでいるはずの日常がふいに覗かせる、意想外の相貌のこともあります。遠方の世界にも、足もとの暮らしにもある異郷に向き合い、表現することが文学の仕事のすべて、といっても過言ではありません。

伊豆を愛したノーベル文学賞作家・川端康成(日本ペンクラブ第4代会長)は「伊豆は詩の国であると、世の人はいう。伊豆は日本歴史の縮図であると、或る歴史家はいう」と書き起こし、ならば自分にとっては何であるか、と自問した。彼が異郷の伊豆で目を凝らしたのは、数々の火山や海岸線の岸壁の「男らしい力」と、いたるところに湧き出る温泉の「女の乳の温かい豊かさ」、両者が織りなす「命」のあや(川端「伊豆序説」1931)。この異郷の凝視から、何編もの名作が生まれました。

さて、ひるがえって現代の日本。

あらゆる景観、すべての出来事が刻々と、細大漏らさずデジタルデータ化されている。膨大な情報はフラットに広がり積み重なって、どこにももう異郷などないように思われるかもしれません。しかし、異郷を失ったとき、異郷を見つめるまなざしが曇ったとき、すぐ足もとにある異郷が目に入らなくなったとき、私たちの力、私たちの豊かさ、私たちの命も枯れていく……。異郷はまた、私たちが生きることそれ自体のエネルギーの源泉でもあるのです。

〈ふるさとと文学2023〉「異郷としての日本」は、魏志倭人伝、マルコ・ポーロのジバングから近年のインバウンド需要や難民受け入れ問題まで、見ること、見られることを通じて、この日本がいかに生きるエネルギーを得てきたか、あるいは与え、奪ってきたか、そこにあった発見の驚きと感動、常識の揺らぎと転覆、ときには違和と反発、これらすべてが作り出す世界の広がりとは何だったか——を、映像と語りと音楽、朗読劇、シンポジウムで多彩にくり広げ、問いかけます。

第3部 シンポジウム「異郷としての日本」

パネリスト

中国

中国ハルビン生まれ。1987年留学生として来日。お茶の水女子大学文教育学部卒業。中国語新聞の記者、中国語教師を経て、2007年小説『ワンちゃん』で文学界新人賞を受賞し作家デビュー。2008年『時が滲む朝』で第139回芥川賞受賞。日本大学芸術学部教授。

楊逸(ヤンイー)

アメリカ

米国サウスカロライナ州生まれ。2007年外国語指導助手として来日。2017年同志社大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程修了。2021年『鴨川ランナー』(講談社)で第2回京都文学賞を受賞。2023年『開墾地』(講談社)で第168回芥川賞候補となる。法政大学グローバル教養学部准教授。

グレゴリー・ケズナジャット

スイス

スイス生まれ。高校時代から独学で日本語を学び、1986年から日本在住。同志社大学卒。1996年、『いちげんさん』ですばる文学賞を受賞、芥川賞候補となる。同作品は映画化される。日本語で執筆を続けながらリフレクソロジストとしても活動中。

デビット・ゾパティ

進行

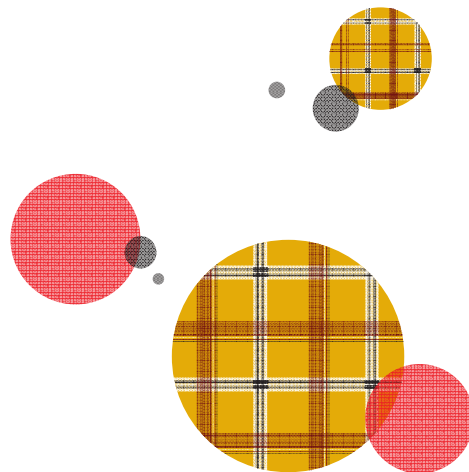
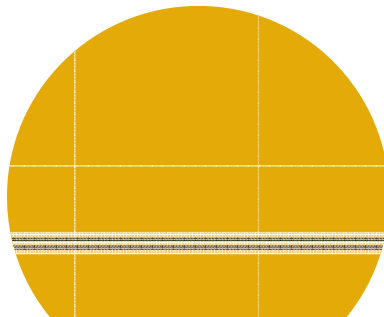
東京都出身。明治学院大学名誉教授、翻訳家。翻訳書に『またの名をグレイス』(マーガレット・アトウッド)など。

佐藤アヤ子(さとう あやこ)



挨拶

日本ペンクラブ会長
桐野夏生(きりの なつお)
石川県出身。1999年「柔らかな類」で直木賞受賞。ほか文学賞受賞多数。日本ペンクラブ会長。



●その他県内地域

| 開催日時 | 会場 | 参加費 | 申込定員 | 申込・問合せ先 |
|--|---|--|------|------------------------------|
| 9月22日(金)～24日(日) 9:30～17:00(最終日は16:00) | ◆島田市民文化祭【主催/島田市】 島田市に在勤・在住・在学の方が作った小説や短歌、俳句などの作品展示を実施します。 プラザおおるり | 無料 | 申込不要 | 0547-36-5420 島田市民文化祭実行委員会事務局 |
| 10月7日(土) ～2024年1月14日(日) | ◆するが文化の散歩道スタンプラリー2023【主催/静岡県・焼津市・藤枝市】(協力/静岡県立大学細川ゼミ) 県中部の文化人を顕彰する施設を巡るスタンプラリーです。 中勤助文学記念館、静岡市立芹沢桂介美術館 焼津小泉八雲記念館、藤枝市郷土博物館・文学館 | 無料 | 申込不要 | 054-255-4746 (公財)静岡県文化振興財団 |
| 10月9日(月) 10:00～ | ◆第46回北原白秋歌碑顕彰祭【主催/湖西市文化協会】 北原白秋ゆかりの本興寺で「浜名湖や白秋」をテーマに募集した俳句・短歌の表彰式や鷺津節の披露を行います。 本興寺 | 無料 | 申込不要 | 053-578-1700 湖西市文化協会 |
| 10月15日(日) 14:00～ | ◆本と音楽の素敵な出会い「ラプカは静かに弓を持つ」【主催/(公財)静岡県文化財団・静岡県】 2023年本屋大賞第2位!話題の音楽小説の魅力にトークと演奏で迫る。 グランシップ中ホール 大地 | 一般3800円 子ども・学生1000円 (23歳以下の学生) ※未就学児入不可 | 要申込 | 054-289-9000 グランシップチケットセンター |

●県内文学館主催イベント

長泉町井上靖文学館

| 開催日時 | 会場 | 参加費 | 申込定員 | 申込・問合せ先 |
|----------------------------|---|-------------------|------|---------------------------|
| 9月16日(土) ～2024年3月12日(火) | ◆文学館開館50周年記念企画展第2弾「私を変えた井上靖の一冊」展【主催/長泉町井上靖文学館】 現役の作家による貴重な自筆原稿を展示します。 長泉町井上靖文学館 | 大人200円 高校生以下無料 | 申込不要 | 055-986-1771 井上靖文学館(水曜休館) |
| 11月18日(土) 時間未定 | ◆井上靖文学館開館50周年記念講演会【主催/長泉町井上靖文学館】 作家万城目学氏が井上靖作品について語ります。 長泉町文化センター パルフォーレ | 無料 | 要申込 | 055-986-1771 井上靖文学館(水曜休館) |

芹沢光治良記念館

| 開催日時 | 会場 | 参加費 | 申込定員 | 申込・問合せ先 |
|---|---|-----------------------------|---------|------------------------------------|
| 10月21日(土) 9:00～16:00 | ◆沼津市制100周年記念事業沼津ゆかりの文学散歩バスツアー【主催/沼津市教育委員会】 沼津ゆかりの芹沢光治良、井上靖ゆかりの地をガイドと巡ります。 沼津市・長泉町・伊豆市 | 1名300円 | 要申込/35名 | 055-932-0255 芹沢光治良記念館(月曜・祝日の翌日は休館) |
| 12月15日(土) ～2024年5月31日(金) 9:00～16:00 | ◆沼津市制100周年記念事業企画展 沼津ゆかりの文学者たち【主催/沼津市教育委員会】 沼津市名誉市民の作家芹沢光治良、井上靖、大岡信の3氏を中心に、沼津市と関係の深い様々な文学者を、写真や直筆の資料を通じて紹介します。 芹沢光治良記念館1階展示室 | 大人100円 小人50円 (市内小中学生は無料) | 申込不要 | 055-932-0255 芹沢光治良記念館(月曜・祝日の翌日は休館) |

中勤助文学記念館

| 開催日時 | 会場 | 参加費 | 申込定員 | 申込・問合せ先 |
|-------------------------|--|-----|---------|--|
| 9月16日(土) 10:00～12:00 | ◆文学講演会上田敏とその時代【主催/静岡市】 近代日本の詩壇に名訳詩を残した上田敏の生涯と業績について考えていきます。 中勤助文学記念館 | 無料 | 要申込/30名 | 054-200-4894(～9/14) 静岡市コールセンター 054-255-4746 (公財)静岡県文化振興財団 |

焼津小泉八雲記念館

| 開催日時 | 会場 | 参加費 | 申込定員 | 申込・問合せ先 |
|--------------------------|--|-----|---------|------------------------|
| 10月15日(日) 14:00～16:00 | ◆英文学講座～英語で読む小泉八雲vol.4 A Dead Secret「葬られた秘密」【主催/焼津小泉八雲記念館】 八雲作品「葬られた秘密」を英文で味わいます。 焼津小泉八雲記念館多目的室 | 無料 | 要申込/30名 | 054-620-0022 焼津小泉八雲記念館 |

藤枝市郷土博物館・文学館

| 開催日時 | 会場 | 参加費 | 申込定員 | 申込・問合せ先 |
|----------------------------|--|------|------|---------------------------|
| 12月9日(土) ～2024年1月28日(日) | ◆文学館企画展「曾宮一念と藤枝静男」【主催/藤枝市文学館】 藤枝市出身の作家・藤枝静男と画家・曾宮一念の交流を紹介します。 藤枝市郷土博物館・文学館 | 200円 | 申込不要 | 054-645-1100 藤枝市郷土博物館・文学館 |

◆SPAC観光演劇『伊豆の踊子』/新作

台本・演出:多田淳之介 作:川端康成 映像監修:本広克行

川端康成の伊豆旅行体験を元にした作品を舞台化。作中に登場する風光明媚な地の映像を演出に組み込み、新感覚の「観光演劇」としてお届けします。



| 公演会場 | 公演日時 |
|-------------|--|
| 静岡芸術劇場 | 10月7日(土)・29日(日) 11月11日(土)・12日(日)・18日(土)・19日(日) 各日14:00開演 |
| 下田市民文化会館 | 12月15日(金) 18:30開演 |
| 修善寺総合会館 | 12月23日(土) 13:30開演 |
| 浜松市浜北文化センター | 2024年2月10日(土) 13:30開演 |
| 沼津市民文化センター | 2024年2月25日(日) 13:30開演 |

■チケット発売日

●静岡公演:[会員先行予約]2023年8月27日(日)/[一般発売]9月3日(日) ●下田・修善寺公演:[会員先行予約]2023年10月7日(土)/[一般発売]10月14日(土)
●沼津・浜北公演:[会員先行予約]2023年12月3日(日)/[一般発売]12月10日(日)

■チケット購入方法

SPACチケットセンターでの電話予約054-202-3399(受付時間10:00～18:00) ※静岡芸術劇場チケットカウンターでの窓口販売、WEB 予約あり。

